

千葉市議会議員

ふくたに しょうこ



# 福谷章子の街づくり通信

2011年1月号

編集・発行：福谷章子

市民ネットワーク・無所属の会

福谷章子の日記(ブログ): <http://fukutani.blog.ocn.ne.jp/blog/>

ツイッター: <http://twitter.com/shoukosan>

メールアドレス: [fukutani@cello.ocn.ne.jp](mailto:fukutani@cello.ocn.ne.jp)

2011年、ウサギ年です。

ウサギのように小さな草食動物が自然界で生き延びていけるのは、その大きな耳でささやかな情報を緻密にキャッチし、いざという時は後ろ脚を使った瞬発力で身を守ることができるからであると言われています。まさに、脱兎のごとくという言葉そのものです。脱兎のごとく逃げようとは思いませんが、覚悟を決めたら脱兎のごとく行動したい。そのためにも、大きな耳で真摯に世間の声を聞いていきたいと思います。この1年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 今、千葉市は・・・

### 予算編成

12月議会を終え、23年度の予算編成も終盤です。現在、ホームページに各局の予算要求の概要が掲載されていますが、現時点での要求総額は3876億円となっています。これは、22年度予算に比べると373億円、10.6%の増です。当然のことながら、このままでは財源は足りません。そこで、現在行われている市長への説明を経て、最終的に市長査定でカットされる事業もあることとされます。その結果としてまとめられた予算案が、2月15日から始まる議会(第1回定例会)に提示され、審議されることになります。

このように、予算編成の過程(各局の要求内容)が、公開され始めたのは2年前からですが、この予算編成過程の公開こそが、市政を透明化し公正な市政運営の第一歩なのです。どこをどのように圧縮したか、どのような事業に重点を置いたか、関与のプロセスを可視化することで公正さは保たれます。

## 基本計画

市長が変わり、今までの基本計画（15年計画）を見直して新たな基本計画（平成24年から10年計画）を策定するために、昨年は市民の参画の場を作ってきました。市民1万人アンケート、ランチミーティング、市民対話会、市民ワークショップ、市民検討会、中高生座談会、区民検討会などです。現在は、40人規模の審議会（公募市民を含む）を設置してまとめられた原案を検討しているところです。今後は23年度中に議会の議決を経て基本計画に基づいた実施計画をつくり、24年度からそれらに基づいた市政運営が行われます。23年度中は1年間のアクションプランを策定して、24年度につなぎます。

## 市民が主役になるとはどういうことか？

基本計画策定の計画づくりに市民が参画する仕組みは整ってきました。しかしながら、計画づくりには関わっても、実際に事業が行われる際には市と業者にお任せというのが現状です。この実施の段階に市民がどのように関わっていくことができるか、それが今後の大きな課題です。

## 事業の実施に市民が関わる方法

ここは市民に任せて！があってもいい  
市民の思いがこめられた計画でも、事業実施の段階は、行政や業者にお任せでは、当初の思いが実現されるかどうかわかりません。また、生活に身近な事業は、住民参加で行うことの方が、より効率的で精度や満足度の高いものにもあります。したがって、計画の中で市民から出来ると申し出があった事業は、市民に委ねてみるという方法があります。  
また、日常の市民生活の中で市民が気づく緊急に必要な事業もあると予想されます。そのような事業については、市民提案制度を設け、市民自身が取り組める仕組みづくりが必要であると感じます。

## 活動する市民に必要な正しい情報

市民活動に必要なものは、まずは正確でタイムリーな情報です。千葉市の情報政策は公開と発信という面においては進歩していると感じます。しかしながら、部署によって温度差があります。市民へ情報を提供することの重要性を職員一人一人が認識することが大切であり、そのためには、ホームページや市政だよりの構成など、検討課題です。

一方、さまざまな市民の声を分析して市政に反映させるサイクルは未成熟です。現状では、「声の大きな市民の言ったもの勝ち」と言う感はぬぐえません。課題に気づいた市民と職員とが、協議をする場を開いていくことが大切です。